

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目	化 学
----	-----

総 括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総 論〉

受験生がほとんど手を出せないタイプの問題はなかったものの、どの大問も問題文が長く、状況把握に時間がかかるものであった。特に化学問題Ⅱは、空所にされている内容が次の設問に連動しており、さらに式変形もやや煩雑なので、ミスをしやすい。

〈特記事項・トピックス〉

昨年6題も出題された論述問題、導出過程を書かせる問題は、今年は出題されなかった。

〈合格への学習対策〉

近年出題の多い、結晶と隙間に関する理解を深め、糖類、アミノ酸、ペプチド、有機化合物の立体構造の表記などについて完全にマスターしておこう。また、昔から出題の多い平衡定数を使った計算、有機化合物の構造決定についても、過去問を用いて十分トレーニングしておこう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範 囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	記述	化学基礎 化学	イオン結晶 電気化学	全体的に取り組みやすく、確実に得点しておきたい。過去にも同内容の出題があるので、限界イオン半径比や鉛蓄電池の量変化については覚えておきたいところである。なお、問1「は」は「イオン化」や「腐食」も答えになるだろう。	やや易
Ⅱ	記述 選択	化学	化学平衡	空所になっている式を用いて、数値代入やその後の空所の解答を考えるので、慎重に解かなくてはならない。 京大では頻出の物質収支の一般表示の考え方がマスターできていたかがポイント。また問6のグラフでは、平衡移動により増加するRが①、減少しているもののうち、①と変化量の大きさが同じ③がA。Pは $K=[P][R]/[A]=一定$ より、[A]が減少し、[R]が増加するから、[P]は[A]よりも大きく減少する。よってPが④と決まる。	やや難
Ⅲ	記述	化学	(a) アセタールの反応、構造決定 (b) ラセミ体の反応	初見では厳しい内容なので、ヘミアセタール、アセタールの反応を学習したことがあるかで差がついたと思われる。 落ち着いて考えればそれほどややこしくないもので、確実に得点しておきたい。ラセミ体なので、G _S とG _R の質量比も1:1であることを利用すると速い。	標準 標準
Ⅳ	記述 選択	化学	糖・脂肪酸	オリゴ糖のメチル化では、結合部位以外にⅠ'、Ⅱ'は2位のOHがなく、またⅢは6位にOHがないので、メチル化を受けないことに注意。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。